

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		食品開発科学科		
科目名称	卒業論文						授業形態	演習		
科目コード	270100	単位数	6単位	配当学年	4	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	紺谷 靖英								ICT活 用	
授業概要	食と健康に関する課題について研究を行い、その研究をとおして基本的な生化学・分子生物学・微生物学・衛生学的 実験手法および技術を修得する。研究により得られた実験結果は最終的に卒業論文としてまとめる。									
関連する科目	3年次後期までに履修したすべての科目									
授業の進め方 と方法	適切な論文や文献を参考にしながら、テーマに基づいた研究を実施していく。									
授業計画 【第1回】	文献検索法 日本語論文、英語論文の読み方 論文の書き方 プレゼンテーションの方法 文献調査と討論 上記の他・細胞培養方法・微生物培養方法・生体成分分析法									
授業計画 【第2回】	文献検索法 日本語論文、英語論文の読み方 論文の書き方 プレゼンテーションの方法 文献調査と討論 上記の他・細胞培養方法・微生物培養方法・生体成分分析法									
授業計画 【第3回】	文献検索法 日本語論文、英語論文の読み方 論文の書き方 プレゼンテーションの方法 文献調査と討論 上記の他・細胞培養方法・微生物培養方法・生体成分分析法									
授業計画 【第4回】	文献検索法 日本語論文、英語論文の読み方 論文の書き方 プレゼンテーションの方法 文献調査と討論 上記の他・細胞培養方法・微生物培養方法・生体成分分析法									
授業計画 【第5回】	文献検索法 日本語論文、英語論文の読み方 論文の書き方 プレゼンテーションの方法 文献調査と討論 上記の他・細胞培養方法・微生物培養方法・生体成分分析法									
授業計画 【第6回】	文献検索法 日本語論文、英語論文の読み方 論文の書き方 プレゼンテーションの方法 文献調査と討論 上記の他・細胞培養方法・微生物培養方法・生体成分分析法									
授業計画 【第7回】	文献検索法 日本語論文、英語論文の読み方 論文の書き方 プレゼンテーションの方法 文献調査と討論 上記の他・細胞培養方法・微生物培養方法・生体成分分析法									
授業計画 【第8回】	文献検索法 日本語論文、英語論文の読み方 論文の書き方 プレゼンテーションの方法 文献調査と討論 上記の他・細胞培養方法・微生物培養方法・生体成分分析法									
授業計画 【第9回】	文献検索法 日本語論文、英語論文の読み方 論文の書き方 プレゼンテーションの方法 文献調査と討論 上記の他・細胞培養方法・微生物培養方法・生体成分分析法									
授業計画 【第10回】	文献検索法 日本語論文、英語論文の読み方 論文の書き方 プレゼンテーションの方法 文献調査と討論 上記の他・細胞培養方法・微生物培養方法・生体成分分析法									

[illegible]

[illegible]

[illegible]

授業の到達目標	1. 卒業研究の過程で基本的な実験の手技、論理的思考のトレーニングや問題解決能力のトレーニングを行う。【職業 知識・技能の育成】 2. ディプロマポリシー中の科学的思考や技術を習得する目標を達成すること。【自己管理・生涯学習力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	研究テーマに関連する文献を選び情報収集に努めること。
授業時間外学習【復習】	研究テーマに関連する文献を選び情報収集に努めること。
課題に対する フィードバック	卒業論文作成に向けてディスカッションしながら研究を継続する。
評価方法・基準	単位を認定するうえで1、2、3年次の卒業論文発表会をすべて出席することを条件とする。 卒業論文に至るまでの取り組み姿勢、結果内容、最終報告状況により総合的に判断する。 論文発表会および提出された卒業論文に基づき評価を行う。 100点
テキスト	指定しない。
参考書	指定しない。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		食品開発科学科		
科目名称	卒業論文						授業形態		演習	
科目コード	270100	単位数	6単位	配当学年	4	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	山崎 楓								ICT活 用	○
授業概要	食品に関する課題について研究を行い、その研究を通して生化学的実験手法および技術を修得する。研究で得られた結果を最終的に卒業論文にまとめる。									
関連する科目	3年時後期までに履修したすべての科目									
授業の進め方 と方法	適宜文献検索サイトなどで文献を調査する。 文献を参考にしながら、テーマに基づいた研究を実施していく。 データ解析や研究発表は、PCIにて行う。									
授業計画 【第1回】	テーマに基づいた文献調査（探し方、日本語論文・英語論文の読み方） 実験の実施 実験結果のディスカッション プレゼンテーションの方法 卒業論文の書き方									
授業計画 【第2回】	テーマに基づいた文献調査（探し方、日本語論文・英語論文の読み方） 実験の実施 実験結果のディスカッション プレゼンテーションの方法 卒業論文の書き方									
授業計画 【第3回】	テーマに基づいた文献調査（探し方、日本語論文・英語論文の読み方） 実験の実施 実験結果のディスカッション プレゼンテーションの方法 卒業論文の書き方									
授業計画 【第4回】	テーマに基づいた文献調査（探し方、日本語論文・英語論文の読み方） 実験の実施 実験結果のディスカッション プレゼンテーションの方法 卒業論文の書き方									
授業計画 【第5回】	テーマに基づいた文献調査（探し方、日本語論文・英語論文の読み方） 実験の実施 実験結果のディスカッション プレゼンテーションの方法 卒業論文の書き方									
授業計画 【第6回】	テーマに基づいた文献調査（探し方、日本語論文・英語論文の読み方） 実験の実施 実験結果のディスカッション プレゼンテーションの方法 卒業論文の書き方									
授業計画 【第7回】	テーマに基づいた文献調査（探し方、日本語論文・英語論文の読み方） 実験の実施 実験結果のディスカッション プレゼンテーションの方法 卒業論文の書き方									
授業計画 【第8回】	テーマに基づいた文献調査（探し方、日本語論文・英語論文の読み方） 実験の実施 実験結果のディスカッション プレゼンテーションの方法 卒業論文の書き方									
授業計画 【第9回】	テーマに基づいた文献調査（探し方、日本語論文・英語論文の読み方） 実験の実施 実験結果のディスカッション プレゼンテーションの方法 卒業論文の書き方									
授業計画 【第10回】	テーマに基づいた文献調査（探し方、日本語論文・英語論文の読み方） 実験の実施 実験結果のディスカッション プレゼンテーションの方法 卒業論文の書き方									

[illegible]

[illegible]

[illegible]

授業の到達目標	科学的思考や技術、基本的な実験の手技を習得すること。 論理的思考や問題解決能力を習得すること。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	テーマに関連する論文や参考書などを探し、内容を理解することで、自身の研究の発展につなげていくこと。
授業時間外学習【復習】	テーマに関連する論文や参考書などを探し、内容を理解することで、自身の研究の発展につなげていくこと。
課題に対する フィードバック	実験結果や卒業論文作成時など、適宜ディスカッションしながら研究を進めていく。
評価方法・基準	提出された卒業論文、論文発表会、研究への取り組み姿勢に基づき評価を行う。 単位を認定するうえで 1、2、3 年次の卒業論文発表会をすべて出席することを条件とする。
テキスト	使用しない
参考書	使用しない
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		食品開発科学科		
科目名称	卒業論文						授業形態		講義・演習	
科目コード	270100	単位数	6単位	配当学年	4	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	岡崎 善三								ICT活用	
授業概要	これまでに習得した食品全般に関する知識及び醸造学の経験を活かして、新たな切り口から未知の課題に対して指導教員と協議のもと研究テーマを選択、関連情報を文献検索を行い蒐集・調査した上で実験計画を立てる。実験計画については研究室内の進捗状況報告会にて討議し、了解を得た上で実験研究を進める。都度進捗状況を報告しながら最終的に卒業論文として纏め上げ提出する。研究内容については年度末に実施される卒業研究論文発表会に於いて発表を行い、学科内での承認を得ることで卒業論文として認定する。 食品企業（メーカー）での研究所・工場勤務の経験を活かした指導を実施									
関連する科目	1年～4年までに受講した全科目及び、研究課題で調査した文献に関係する科目の全て									
授業の進め方 と方法	年に数回程度計画している課題進捗状況報告会にて進捗状況を発表し、討議しながら研究課題を遂行する。 上記報告会で用いる「卒業論文（研究）自己評価票」により進捗管理を行う。									
授業計画 【第1回】	授業内容自体研究担当者が主体となり取り組んでいくべきものであり、都度報告会に於いて進捗状況を評価し、内容によってはテーマの見直しも含めて実施していく。進捗概要としては以下の通り。 1. 研究課題の設定 2. 課題関連文献検索の調査・収集 3. 課題決定検討会の実施 4. 実験計画の見直し									
授業計画 【第2回】	1回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。									
授業計画 【第3回】	1回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。									
授業計画 【第4回】	1回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。									
授業計画 【第5回】	1回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。									
授業計画 【第6回】	1回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。									
授業計画 【第7回】	1回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。									
授業計画 【第8回】	1回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。									
授業計画 【第9回】	1回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。									
授業計画 【第10回】	1回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。									

授業計画 【第11回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第12回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第13回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第14回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第15回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第16回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第17回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第18回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第19回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第20回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第21回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第22回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第23回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第24回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第25回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第26回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第27回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。

授業計画 【第28回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第29回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第30回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第31回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第32回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第33回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第34回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第35回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第36回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第37回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第38回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第39回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第40回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第41回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第42回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第43回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第44回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。

授業計画 【第45回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第46回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第47回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第48回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第49回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第50回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第51回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第52回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第53回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第54回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第55回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第56回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第57回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第58回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第59回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。
授業計画 【第60回】	1 回目の記述を年間計画として、各自が実験計画を立案する。

授業の到達目標	課題説明のための実験を通して体験できた様々な経験を修得し、次の課題に向けた対応力の醸成を持って目標と位置付ける。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	研究課題に関係する論文を調査し、精読、理解及び内容を評価した上で、実験計画を立案する。
授業時間外学習【復習】	実験計画に基づいた結果を評価し、卒論をまとめていく。
課題に対する フィードバック	「卒業論文（研究）自己評価票」により進捗管理を行う。
評価方法・基準	卒業論文に至るまでの取り組み姿勢、結果内容、最終報告状況により総合的に判断する。
テキスト	関連文献全て
参考書	関連文献全て
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス	宮崎キャンパス	開設学科	食品開発科学科				
科目名称	卒業論文					授業形態	実験		
科目コード	270100	単位数	6単位	配当学年	4	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	長田 隆							ICT活 用	○
授業概要	特に食品産業界が課題としている、食品安全に関するテーマを定め、各種文献を参考資料として調査研究を行う。定期的に研究状況を発表資料にまとめ、口頭発表を実施する。また、関連するテーマに関する実験を行い、疑問を解決するとともに、レポートを作成・提出する								
関連する科目	3年次後期までに履修した全ての科目								
授業の進め方 と方法	指導教官との話し合いで、研究テーマを決定し、適切な文献を参考にしながら、テーマに基づいた研究を実施する。また、研究は2ヶ月程度の計画案を作成し、計画的に実施する。								
授業計画 【第1回】	ガイダンス								
授業計画 【第2回】	卒業論文のテーマの方向性								
授業計画 【第3回】	卒業論文関連文献検索の調査・収集①								
授業計画 【第4回】	卒業論文関連文献検索の調査・収集②								
授業計画 【第5回】	卒業論文テーマ決定検討会の実施								
授業計画 【第6回】	卒業論文実施								
授業計画 【第7回】	卒業論文実施								
授業計画 【第8回】	卒業論文実施								
授業計画 【第9回】	卒業論文進捗状況検討会の実施								
授業計画 【第10回】	卒業論文実施								

授業計画 【第11回】	卒業論文実施
授業計画 【第12回】	卒業論文実施
授業計画 【第13回】	卒業論文のまとめ
授業計画 【第14回】	卒業論文のまとめ
授業計画 【第15回】	卒業論文のまとめ
授業計画 【第16回】	卒業論文のまとめ
授業計画 【第17回】	卒業研究論文発表会での発表
授業計画 【第18回】	卒業論文の提出
授業計画 【第19回】	
授業計画 【第20回】	
授業計画 【第21回】	
授業計画 【第22回】	
授業計画 【第23回】	
授業計画 【第24回】	
授業計画 【第25回】	
授業計画 【第26回】	
授業計画 【第27回】	

授業計画 【第28回】	
授業計画 【第29回】	
授業計画 【第30回】	
授業計画 【第31回】	
授業計画 【第32回】	
授業計画 【第33回】	
授業計画 【第34回】	
授業計画 【第35回】	
授業計画 【第36回】	
授業計画 【第37回】	
授業計画 【第38回】	
授業計画 【第39回】	
授業計画 【第40回】	
授業計画 【第41回】	
授業計画 【第42回】	
授業計画 【第43回】	
授業計画 【第44回】	

授業計画 【第45回】	
授業計画 【第46回】	
授業計画 【第47回】	
授業計画 【第48回】	
授業計画 【第49回】	
授業計画 【第50回】	
授業計画 【第51回】	
授業計画 【第52回】	
授業計画 【第53回】	
授業計画 【第54回】	
授業計画 【第55回】	
授業計画 【第56回】	
授業計画 【第57回】	
授業計画 【第58回】	
授業計画 【第59回】	
授業計画 【第60回】	

授業の到達目標	1. 取り組み課題の設定から実験計画を策定し、PDCAに基づいて研究を遂行する能力を習得する 2. 実験から得られたデータを分析するための、適切なグラフの作成、統計解析技法等を習得する 3. 研究室内のメンバーと協力しながら研究を遂行し、ディスカッションおよび論文作成を行う。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	関連文献の調査。講義時間内でまとめきれなかった実験ノートの整理。
授業時間外学習【復習】	関連文献の調査。講義時間内でまとめきれなかった実験ノートの整理。
課題に対する フィードバック	卒業論文の進捗やまとめを評価し合うことで問題解決を自ら実施する。
評価方法・基準	研究室活動における活動時間数、および、発表会におけるプレゼンテーションの完成度、提出された卒業論文の完成度を総合的に評価する。
テキスト	論文等、随時指示する。
参考書	論文等、随時指示する。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス	宮崎キャンパス	開設学科	食品開発科学科				
科目名称	卒業論文				授業形態	演習			
科目コード	270100	単位数	6単位	配当学年	4	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	矢野原 泰士							ICT活 用	○
授業概要	本授業の目的は、食品分野における課題を見つけ、実験研究を行ない、その結果を卒業論文として、まとめる力をつけることです【専門力の育成】。主な研究テーマは、企業や消費者のニーズを基にした、地域特産品を活用した食品の開発などです。初めに、指導教官との話し合いで、研究テーマを決定し、関連する文献や書籍から情報を収集するとともに、教員の指導のもとで実験研究を進めます。そして、研究により得られた成果を卒業論文としてまとめます【専門力の育成】。								
関連する科目	事前に「農産物利用学」、「畜産・水産製造学」、「食品流通・消費論」、「食品保蔵学」、「食品の官能評価・鑑別論」を受講しておくことが望まれます。								
授業の進め方 と方法	最初に指導教官との話し合いで、研究テーマを決定します。そして、関連する文献や書籍から情報を収集します【知識・理解の獲得】。教員の指導のもとで実験研究を進め、研究により得られた成果を卒業論文としてまとめます【専門力の育成】。								
授業計画 【第1回】	研究テーマの決定 前年度の卒業研究課題の引き継ぎ等を行います。								
授業計画 【第2回】	文献検索①								
授業計画 【第3回】	文献検索②								
授業計画 【第4回】	文献検索③								
授業計画 【第5回】	日本語論文、英語論文の読み方①								
授業計画 【第6回】	日本語論文、英語論文の読み方②								
授業計画 【第7回】	日本語論文、英語論文の読み方③								
授業計画 【第8回】	論文の書き方①（卒業研究に関連する文献の検索や卒業論文の書き方について学びます）								
授業計画 【第9回】	論文の書き方②（卒業研究に関連する文献の検索や卒業論文の書き方について学びます）								
授業計画 【第10回】	論文の書き方③（卒業研究に関連する文献の検索や卒業論文の書き方について学びます）								

授業計画 【第11回】	実験研究の遂行①
授業計画 【第12回】	実験研究の遂行②
授業計画 【第13回】	実験研究の遂行③
授業計画 【第14回】	実験研究の遂行④
授業計画 【第15回】	実験研究の遂行⑤
授業計画 【第16回】	実験研究の遂行⑥
授業計画 【第17回】	実験研究の遂行⑦
授業計画 【第18回】	実験研究の遂行⑧
授業計画 【第19回】	実験研究の遂行⑨
授業計画 【第20回】	実験研究の遂行⑩
授業計画 【第21回】	実験研究の遂行⑪
授業計画 【第22回】	実験研究の遂行⑫
授業計画 【第23回】	実験研究の遂行⑬
授業計画 【第24回】	実験研究の遂行⑭
授業計画 【第25回】	実験研究の遂行⑮
授業計画 【第26回】	実験研究の遂行⑯
授業計画 【第27回】	実験研究の遂行⑰

授業計画 【第28回】	実験研究の遂行⑱
授業計画 【第29回】	実験研究の遂行⑲
授業計画 【第30回】	実験研究の遂行⑳
授業計画 【第31回】	実験研究の遂行㉑
授業計画 【第32回】	実験研究の遂行㉒
授業計画 【第33回】	実験研究の遂行㉓
授業計画 【第34回】	実験研究の遂行㉔
授業計画 【第35回】	実験研究の遂行㉕
授業計画 【第36回】	実験研究の遂行㉖
授業計画 【第37回】	実験研究の遂行㉗
授業計画 【第38回】	実験研究の遂行㉘
授業計画 【第39回】	実験研究の遂行㉙
授業計画 【第40回】	実験研究の遂行㉚
授業計画 【第41回】	実験研究の進捗状況の報告①
授業計画 【第42回】	実験研究の進捗状況の報告②
授業計画 【第43回】	実験研究の進捗状況の報告③
授業計画 【第44回】	実験研究の進捗状況の報告④

授業計画 【第45回】	実験研究の進捗状況の報告⑤
授業計画 【第46回】	実験結果の考察および追加実験①
授業計画 【第47回】	実験結果の考察および追加実験②
授業計画 【第48回】	実験結果の考察および追加実験③
授業計画 【第49回】	実験結果の考察および追加実験④
授業計画 【第50回】	実験結果の考察および追加実験⑤
授業計画 【第51回】	研究成果のまとめ①
授業計画 【第52回】	研究成果のまとめ②
授業計画 【第53回】	研究成果のまとめ③
授業計画 【第54回】	研究成果のまとめ④
授業計画 【第55回】	研究成果のまとめ⑤
授業計画 【第56回】	卒業論文の作成①
授業計画 【第57回】	卒業論文の作成②
授業計画 【第58回】	卒業論文の作成③
授業計画 【第59回】	卒業論文の作成④
授業計画 【第60回】	卒業論文の作成⑤

授業の到達目標	1. 論理的な思考、問題解決能力のトレーニングを行う【知識・理解の獲得】。 2. 基本的な研究（実験）手法、優れた文章の書き方、プレゼンテーション法を修得する【専門力の育成】。
学位授与の方針（DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	研究テーマに関連する文献等を調査し、情報収集に努めてください。
授業時間外学習【復習】	得られた実験データに対する考察を行ってください。
課題に対するフィードバック	1. ゼミ発表時に、改善点などについて指導します。 2. 卒業論文の作成時に、段階的に評価をして、修正点などについて指導します。
評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価します。 1) 卒業研究に取り組む姿勢（30点） 2) 卒業論文内容（60点） 3) プレゼンテーション（10点）。
テキスト	指定しない
参考書	必要に応じて指示します。
備考	毎年2月に開催される食品開発科学科卒業論文発表会へ必ず出席すること。

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス	宮崎キャンパス	開設学科	食品開発科学科				
科目名称	卒業論文					授業形態			
科目コード	270100	単位数	6単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	永田 さやか							ICT活 用	○
授業概要	食品がもつ様々な有用な成分、特に機能性ペプチドを探索する。ターゲットとする食品は自ら選択し、食品からペプチドを抽出して降圧効果やがん細胞増殖抑制効果、自分達で調べて最終的にレポートしてまとめるまでを習熟する。								
関連する科目	特に「食品機能学」や「食品分析学」、また、「食品基礎実験」や「食品学実験」といった実験授業など。								
授業の進め方 と方法	食品がもつ様々な有用な成分、特に機能性ペプチドを探索する。ターゲットとする食品は自ら選択し、インターネットや学術論文検索（PubMed）を活用しながら自分達で調べて最終的にレポートしてまとめるまでを習熟する。								
授業計画 【第1回】	食品の機能性について 1 食品の機能性成分について各自調べる。								
授業計画 【第2回】	食品の機能性について 1 食品の機能性成分について各自調べる。								
授業計画 【第3回】	食品の機能性について 2 調べた食品の機能性成分について発表を行う。								
授業計画 【第4回】	食品の機能性について 2 調べた食品の機能性成分について発表を行う。								
授業計画 【第5回】	卒業研究のテーマの選択 調べた食品の機能性成分について討論を行う。								
授業計画 【第6回】	卒業研究のテーマの選択 調べた食品の機能性成分について討論を行う。								
授業計画 【第7回】	卒業研究のテーマの決定 卒業論文のテーマを決定し、役割分担を話し合う。								
授業計画 【第8回】	卒業研究のテーマの決定 卒業論文のテーマを決定し、役割分担を話し合う。								
授業計画 【第9回】	食品サンプルからの成分抽出（特にペプチド） 1 卒業論文の対象とした食品に関してペプチド分画を抽出する。								
授業計画 【第10回】	食品サンプルからの成分抽出（特にペプチド） 1 卒業論文の対象とした食品に関してペプチド分画を抽出する。								

授業計画 【第11回】	食品サンプルからの成分抽出（他の成分）2 卒業論文の対象とした食品に関してペプチド以外の機能性成分を抽出する。
授業計画 【第12回】	食品サンプルからの成分抽出（他の成分）2 卒業論文の対象とした食品に関してペプチド以外の機能性成分を抽出する。
授業計画 【第13回】	抽出成分（ペプチド）の精製1 抽出したペプチド分画を一次精製する。
授業計画 【第14回】	抽出成分（ペプチド）の精製1 抽出したペプチド分画を一次精製する。
授業計画 【第15回】	血圧上昇抑制効果の確認1 抽出したペプチド成分の血圧上昇抑制効果（ACE阻害活性）を確認する。
授業計画 【第16回】	血圧上昇抑制効果の確認1 抽出したペプチド成分の血圧上昇抑制効果（ACE阻害活性）を確認する。
授業計画 【第17回】	血圧上昇抑制効果の確認2 抽出した機能性成分の血圧上昇抑制効果（ACE阻害活性）を確認する。
授業計画 【第18回】	血圧上昇抑制効果の確認2 抽出した機能性成分の血圧上昇抑制効果（ACE阻害活性）を確認する。
授業計画 【第19回】	抗菌効果の確認1 抽出したペプチド成分の抗菌効果（クリアゾーンの面積）を確認する。
授業計画 【第20回】	抗菌効果の確認1 抽出したペプチド成分の抗菌効果（クリアゾーンの面積）を確認する。
授業計画 【第21回】	抗菌効果の確認2 抽出した機能性成分の抗菌効果（クリアゾーンの面積）を確認する。
授業計画 【第22回】	抗菌効果の確認2 抽出した機能性成分の抗菌効果（クリアゾーンの面積）を確認する。
授業計画 【第23回】	がん細胞増殖抑制効果の確認1 抽出したペプチド成分のがん細胞増殖抑制効果を確認する。
授業計画 【第24回】	がん細胞増殖抑制効果の確認1 抽出したペプチド成分のがん細胞増殖抑制効果を確認する。
授業計画 【第25回】	がん細胞増殖抑制効果の確認2 抽出した機能性成分のがん細胞増殖抑制効果を確認する。
授業計画 【第26回】	がん細胞増殖抑制効果の確認2 抽出した機能性成分のがん細胞増殖抑制効果を確認する。
授業計画 【第27回】	補体活性抑制効果の確認1 抽出したペプチド成分の補体活性化抑制効果を確認する。

授業計画 【第28回】	補体活性抑制効果の確認 1 抽出したペプチド成分の補体活性化抑制効果を確認する。
授業計画 【第29回】	補体活性抑制効果の確認 2 抽出した機能性成分の補体活性化抑制効果を確認する。
授業計画 【第30回】	補体活性抑制効果の確認 2 抽出した機能性成分の補体活性化抑制効果を確認する。
授業計画 【第31回】	抽出成分（ペプチド）の精製 2 抽出し各機能性が見られたペプチド分画を二次精製する。
授業計画 【第32回】	抽出成分（ペプチド）の精製 2 抽出し各機能性が見られたペプチド分画を二次精製する。
授業計画 【第33回】	液クロによる分析 1 逆相カラムを使った液クロを用いて分離パターンを解析する。
授業計画 【第34回】	液クロによる分析 1 逆相カラムを使った液クロを用いて分離パターンを解析する。
授業計画 【第35回】	液クロによる分析 2 ゲルろ過カラムを使った液クロを用いて分離パターンを解析する。
授業計画 【第36回】	液クロによる分析 2 ゲルろ過カラムを使った液クロを用いて分離パターンを解析する。
授業計画 【第37回】	血圧上昇抑制効果の確認 3 液クロのピーク毎の血圧上昇抑制効果（ACE阻害活性）を確認する。
授業計画 【第38回】	血圧上昇抑制効果の確認 3 液クロのピーク毎の血圧上昇抑制効果（ACE阻害活性）を確認する。
授業計画 【第39回】	抗菌効果の確認 3 液クロのピーク毎の抗菌効果（クリアゾーンの面積）を確認する。
授業計画 【第40回】	抗菌効果の確認 3 液クロのピーク毎の抗菌効果（クリアゾーンの面積）を確認する。
授業計画 【第41回】	がん細胞増殖抑制効果の確認 3 液クロのピーク毎のがん細胞増殖抑制効果を確認する。
授業計画 【第42回】	がん細胞増殖抑制効果の確認 3 液クロのピーク毎のがん細胞増殖抑制効果を確認する。
授業計画 【第43回】	補体活性抑制効果の確認 3 液クロのピーク毎の補体活性化抑制効果を確認する。
授業計画 【第44回】	補体活性抑制効果の確認 3 液クロのピーク毎の補体活性化抑制効果を確認する。

授業計画 【第45回】	抽出成分（ペプチド）の精製3 抽出し各機能性が見られたペプチド分画を三次精製する。
授業計画 【第46回】	抽出成分（ペプチド）の精製3 抽出し各機能性が見られたペプチド分画を三次精製する。
授業計画 【第47回】	イオン交換による分析 イオン交換カラムを使って分離する。
授業計画 【第48回】	イオン交換による分析 イオン交換カラムを使って分離する。
授業計画 【第49回】	研究論文の作成 1 これまでの実験結果を統計解析してまとめる。
授業計画 【第50回】	研究論文の作成 1 これまでの実験結果を統計解析してまとめる。
授業計画 【第51回】	研究論文の作成 2 参考文献を検索し、論文を仕上げる。
授業計画 【第52回】	研究論文の作成 2 参考文献を検索し、論文を仕上げる。
授業計画 【第53回】	研究論文の作成 2 参考文献を検索し、論文を仕上げる。
授業計画 【第54回】	研究発表スライドの作成 卒論発表会用のスライドと原稿を作成する。
授業計画 【第55回】	研究発表スライドの作成 卒論発表会用のスライドと原稿を作成する。
授業計画 【第56回】	研究発表スライドの作成 卒論発表会用のスライドと原稿を作成する。
授業計画 【第57回】	卒業論文発表会 各自の卒業論文について発表する。
授業計画 【第58回】	卒業論文発表会 各自の卒業論文について発表する。
授業計画 【第59回】	まとめと討論 卒業論文発表について討論する。
授業計画 【第60回】	まとめと討論 卒業論文発表について討論する。

授業の到達目標	自分で問題点やテーマを探すことができるようになる。また、そのテーマに沿ってまとめてレポートと資料を作成し、人前でプレゼンできるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	自分の研究テーマに沿ってあらかじめ調べておくこと。 (1時間程度)
授業時間外学習【復習】	実験結果を毎回、まとめておくこと。 (2時間程度)
課題に対する フィードバック	卒業論文は採点し、卒業論文発表会のプレゼンは、その日に解説、改善点について話し合う。また最終授業の際に討論の場を設けて質問などについての解説を行う。
評価方法・基準	テーマに沿って実験研究ができたか、また、卒業論文と卒業論文発表会などを総合的に評価する。 単位を認定するうえで1、2、3年次の卒業論文発表会をすべて出席することを条件とする。
テキスト	必要に応じてプリント資料を配布する。
参考書	PubMedによる論文検索
備考	